

玉藻前

長唄

全詞章

作詞者・作曲者・初演年不詳

本名題「狐振分後段景事」（きつねきつねごだんのけいごと）

それ秋津国の東に、那須野といへる郊野あり、実にや三国に跨るる其の名を石にとどめしも、これぞ武勇のいさおしや

四季折々の花の香に、うつろふ色は藤壺の、藤の紫梅壺の、梅の香も身ひとつに、かつぐ玉藻の前渡り

その花よりも月よりも、恋しき人の閨の内、閨の扇のつれなさに、恨みよるべの立姿

武士の弓矢も神の守護なす国、今ぞあらはす我が姿

班足太子の塚の神異国の姉妃

日の本へ渡り来りし白面の

金毛九尾の毛も逆立ち、怒の眼は紅や、黄菊白菊乱れ咲き、われも乱れて此処彼処、狂ふ姿ぞ

恐ろしき

早時来りさらばぞと、夕暮深き村雲の、嵐吹き治ふ飛行の有様あやし恐ろし次第なり